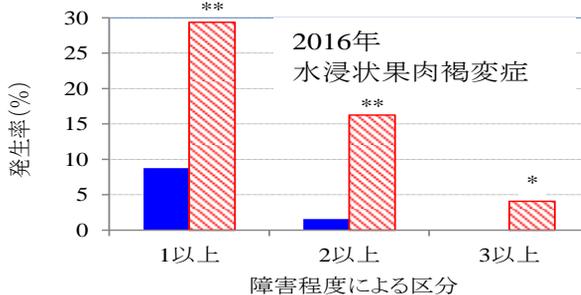
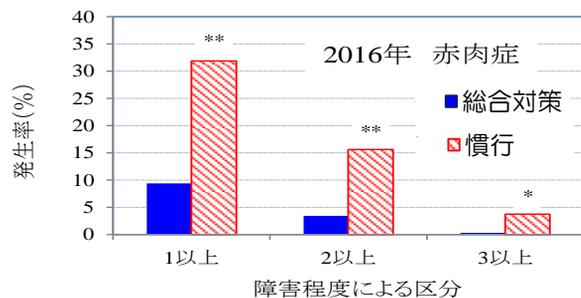


4つの技術を組み合わせると モモの果肉障害を軽減



組み合わせる4つの果肉障害軽減技術



総合的な対策技術の組合せによる
果肉障害に対する軽減効果

注) 障害程度は、0 (無) ~ 4 (多) の5段階評価

開発のねらい

岡山を代表する果物のモモですが、近年、夏季の異常高温や大雨により、果肉障害が起りやすくなっています。このため、果肉障害の軽減に有効な4つの技術を組み合わせ、総合的で効果の高い軽減技術を開発しました。

新技術の概要

- 果実の温度上昇を抑える機能性果実袋と大雨時の水分吸収を抑える部分マルチ敷設は、H27年度の本新技術で紹介していますので、参照して下さい。
- 基部優先着果法は、障害果の発生率が低い枝の基部に近い果実を意図的に残すように摘果します。
- エテホンは植物ホルモンの一種で、高温下でも果実の成熟を促し、果肉障害の発生を軽減する働きがあります（エスレル10を収穫30日前に立木全面に散布）。
- 4つの軽減技術を組み合わせると、赤肉症や水浸状果肉褐変症などの果肉障害に対して、安定した高い軽減効果が得られます。

活用場面

夏季の高温多雨条件でも、果肉障害のない高品質なモモが安定して生産できるようになり、「岡山白桃」のブランド強化に繋がります。